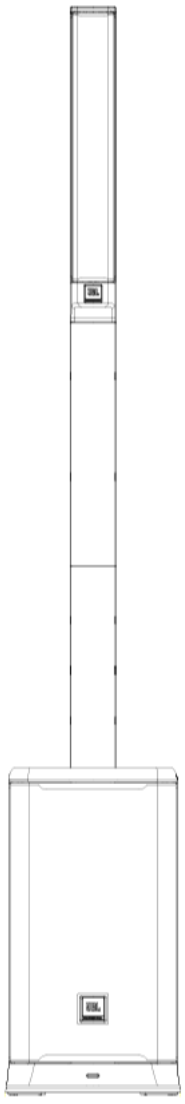
EON ONE MK2

User's Guide



JBL PROFESSIONAL by HARMAN

安全上の注意

1. 湿気の高い環境で使用すると、スピーカーのコーンやサラウンドを損傷したり、電気接点や金属部品を腐食させる可能性があります。
2. スピーカーを長時間、直射日光の下に置かないでください。紫外線（UV）に長時間さらされると、ドライバーのサスペンションが早期に乾燥したり、表面の仕上げが劣化したりします。EON ONE MK2 は、かなりの音響エネルギーを生成します。木やビニール製の床のような滑りやすい表面に置くと、音響エネルギーによりスピーカーが動くことがあります。ステージやテーブルの上に置いた場合は、スピーカーが落下しないように注意してください。

聴覚障害

3. EON ONE MK2 は、演奏者、音楽関係者、観客に聴覚障害を与えるだけの音圧レベル(SPL)を発生することができます。85dB を超える音圧レベルに長時間さらされることのないように注意してください。

メンテナンスとクリーニング

4. クリーニングの際は、乾いた布で拭いてください。システムの開口部に液体が入らないようにしてください。クリーニングをする前に、電源コードをコンセントから抜いてください。

5. シャーシ、ミキサーモジュール、電源カバーを取り外さないでください。感電の危険性があります。内部にはユーザーが修理できる部品はありません。修理は販売店にご依頼ください。

6. 本製品を他の家庭ごみと一緒に廃棄したり、投棄したりしないでください。電子・電気機器の廃棄・回収・集積所については、お住まいの地域のルールに従ってください。

安全記号の説明



感電の危険性があります。カバーを開けないでください。



安全にご使用いただくためにマニュアルの指示に従ってください。

安全上の重要事項

1. 本マニュアルに記載されているすべての警告と指示に従ってください。
2. 水の近くや湿度の高い環境で使用しないでください。
3. 水または液体の中にいれないでください。
4. 直射日光の下で使用しないでください。表面が変色する場合があります。
5. 表面が滑りやすいステージ上に設置しないでください。スピーカーの振動で本体が動き、ステージ下に落下することがあります。
6. 85dB 以上の音圧で音を出し続けると、演奏者、音楽関係者、観衆の聴力に影響を与える場合があります。
7. 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。クリーニングのときは乾いた布で拭いてください。
8. 本体の通気口をふさがないように設置してください。
9. 熱源（ラジエーター、ストーブ、アンプ）などの近くに設置しないでください。
10. 安全のため、必ず付属の電源コードをご使用ください。
11. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
12. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
13. 製品受領時に外部に損傷（電源コード等を含む）が無いか確認してください。もし製品にダメージが有った場合、ただちに販売店へ連絡してください。修理を行わずに使用を続けると更なる深刻なダメージを被る恐れが有ります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる場合が有ります。
14. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
15. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
16. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時や、高い湿度の環境に置かれた時は、販売店に相談してください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
17. 地域の法律に沿ってご使用ください。
18. 設置について疑問が生じた場合は、販売店に相談してください。

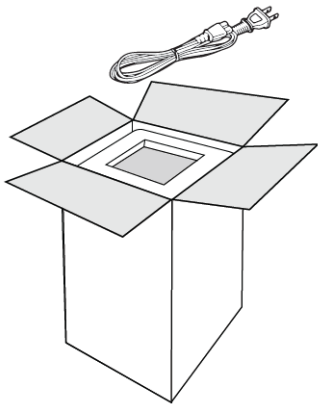
はじめに

このたびは、JBL EON ONE MK2 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。EON ONE MK2 はミキサーと DSP を内蔵したバッテリー駆動対応オールインワン・コラム・スピーカーです。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みください。

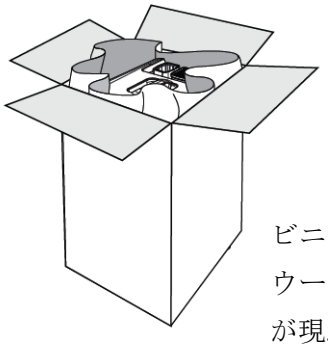
梱包内容

- 本製品 ウーファーキャビネット x 1
- 本製品 バッテリースペーサー x 1
- 本製品 コラムスペーサー x 1
- 本製品 リニア・アレイ x 1
- AC 電源ケーブル（2m）

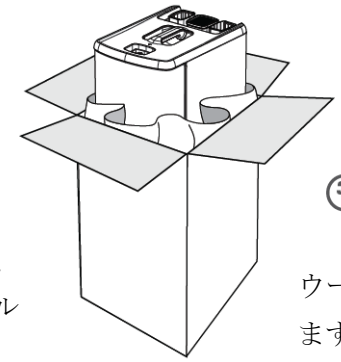
開梱



① 本体を開き、トップボックスから AC ケーブルを取り外します。



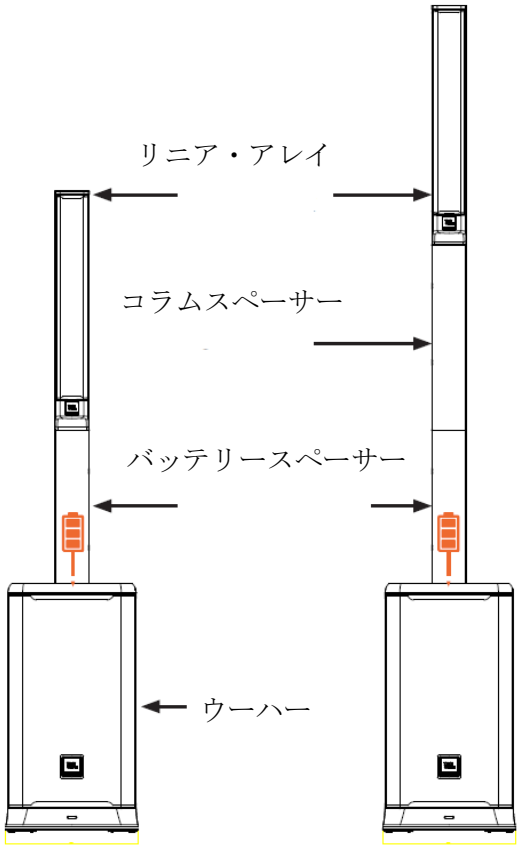
② ビニール袋を開くと、ウーファーのハンドルが現れます



③ ウーファーを取り出します

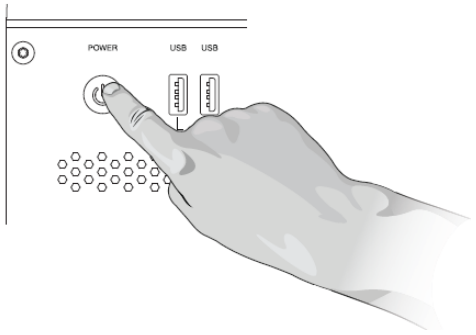
セットアップ

- バッテリースペーサーをウーハーに挿し込みます。
- コラムスペーサーが必要な場合は、コラムスペーサーをバッテリースペーサーに挿し込みます。
- コラムスペーサーにリニア・アレイを挿し込みます。
- 電源を入れます。



電源 ON/OFF

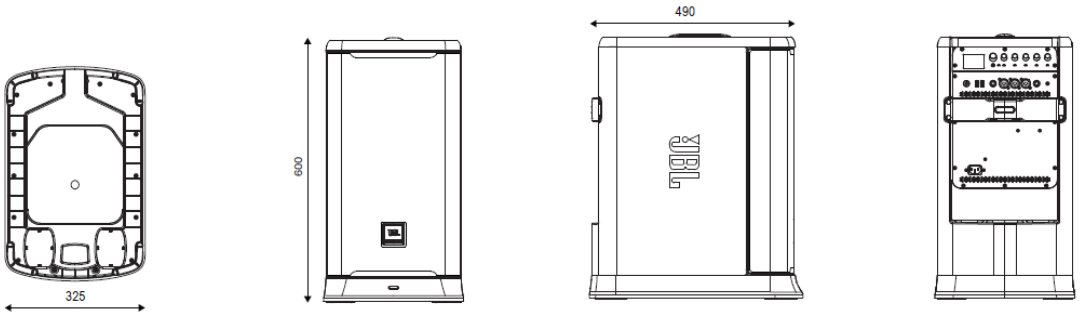
- 電源ボタンを短く押すと、電源が ON になり、LCD ディスプレイが点灯します。
- 電源ボタンを 3 秒間長押しすると電源が OFF になります。



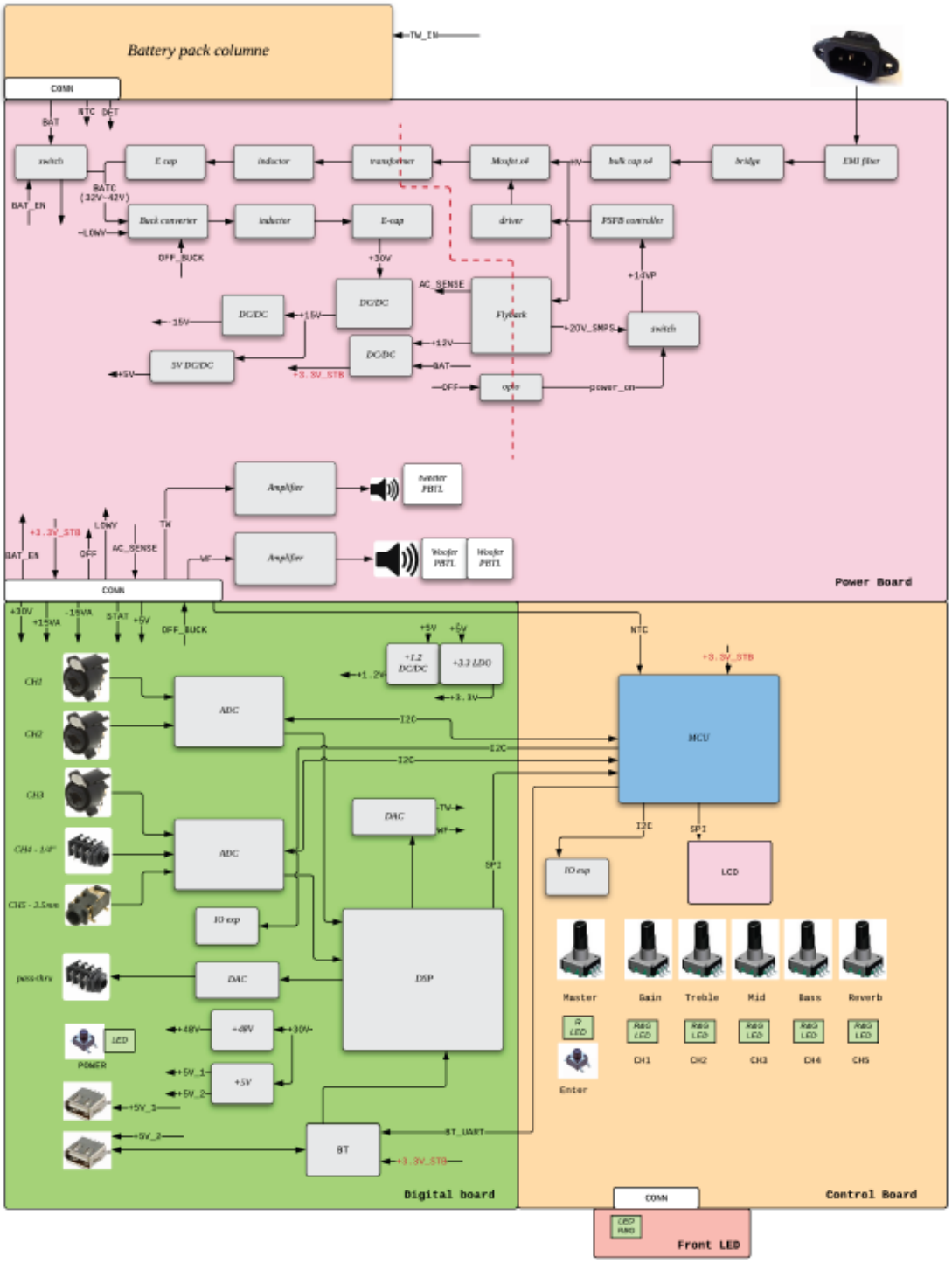
P.A の基本と本製品について

ミキシングボードは、オーディオの入力信号を入力チャンネルから受け取り、出力に「ミックス」する非常にシンプルな装置です。ミキシングボードのつまみにより、入力チャンネルの信号レベルのブレンド、音色の変更、各チャンネルのリバーブレベルの調整などを行うことができます。信号はミキシングボードからアンプ、スピーカーへと送られていきます。本製品は、ミキシングボード、アンプ、スピーカーがセットになったオールインワン・コラム PA システムです。

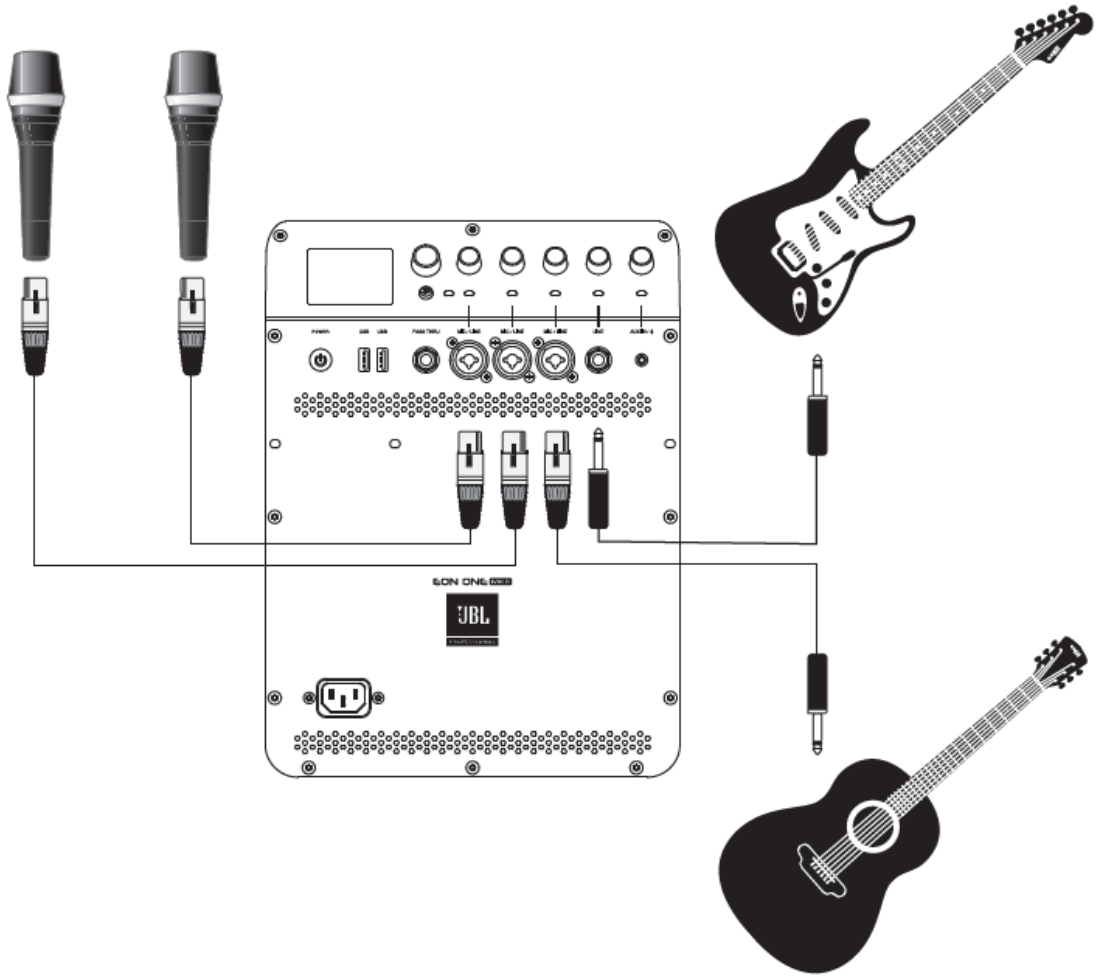
本製品システムのミキサー部には、ミキシングボードとパワーアンプが搭載されています。ここには、マイク、楽器、外部音源（MP3 プレーヤー、CD プレーヤー、Bluetooth オーディオソースなど）を接続することができます。



ブロックダイアグラム


Battery pack columne
CONN
BAT
NTC
DET
switch
E cap
inductor
transformer
Mosfet x4
bulk cap x4
bridge
EMI filter
BAT_EN
BATC (32V~42V)
Buck converter
inductor
E-cap
driver
PSFB controller
LDNV
OFF_BUCK
+30V
AC_SENSE
+14VP
DC/DC
-15V
+15V
+12V
+5V
3V DC/DC
+3.3V_STB
Flyback
+20V_SMPS
switch
BAT
OFF
opto
power_on
Amplifier
Amplifier
Tweeter PBTL
Woofer PBTL
Woofer PBTL
TW
WF
LDNV
OFF
Power Board
+30V
+15VA
-15VA
STAT
+5V
OFF_BUCK
+5V
+1.2 DC/DC
+3.3 LDO
+1.2V
+3.3V
CH1
CH2
CH3
CH4 - 1/4"
CH5 - 3.5mm
pass-thru
ADC
ADC
DAC
IO exp
DAC
DSP
I2C
SPI
TW
WF
POWER
LED
+48V
+48V
+30V
+5V_1
+5V_2
+5V
+5V_3
+5V_2
BT
BT_UART
+3.3V_STB
Digital board
NTC
+3.3V_STB
MCU
IO exp
LCD
Master
Gain
Treble
Mid
Bass
Reverb
R LED
RGB LED
CH1
CH2
CH3
CH4
CH5
Enter
Control Board
CONN
LED RGB
Front LED

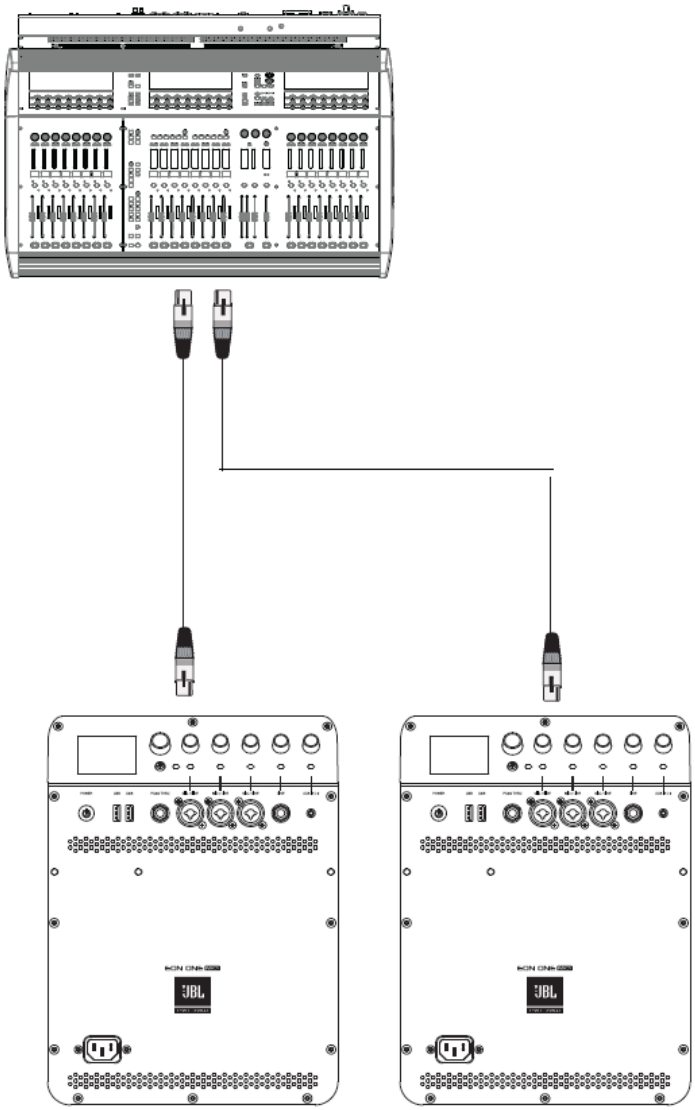
アプリケーション例



複数の楽器やマイクをミキサーに接続

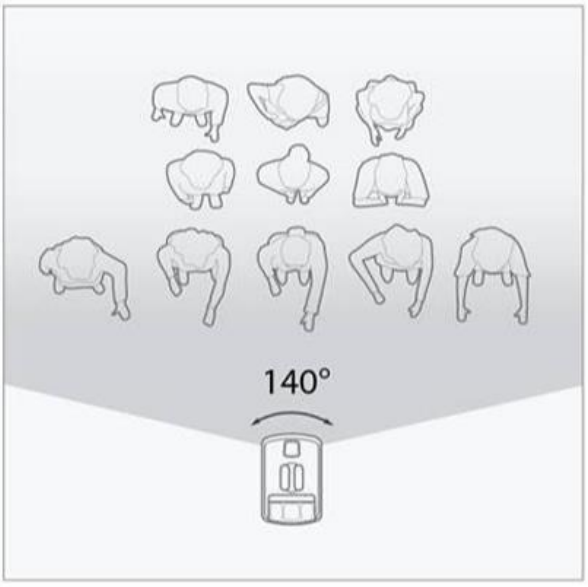
CH1：コンデンサーマイク、CH2：ダイナミックマイク、

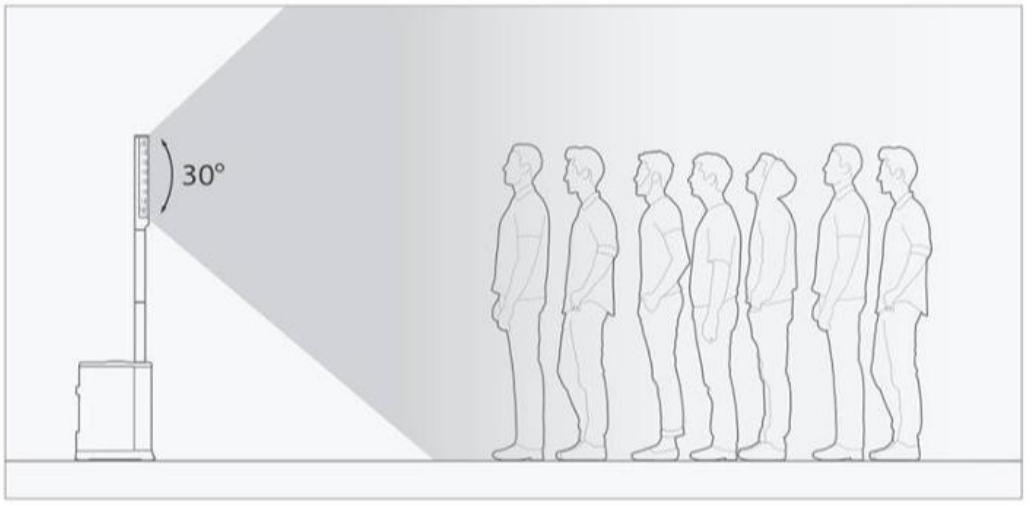
CH3：アクティブピックアップギター、CH4： パッシブピックアップギター



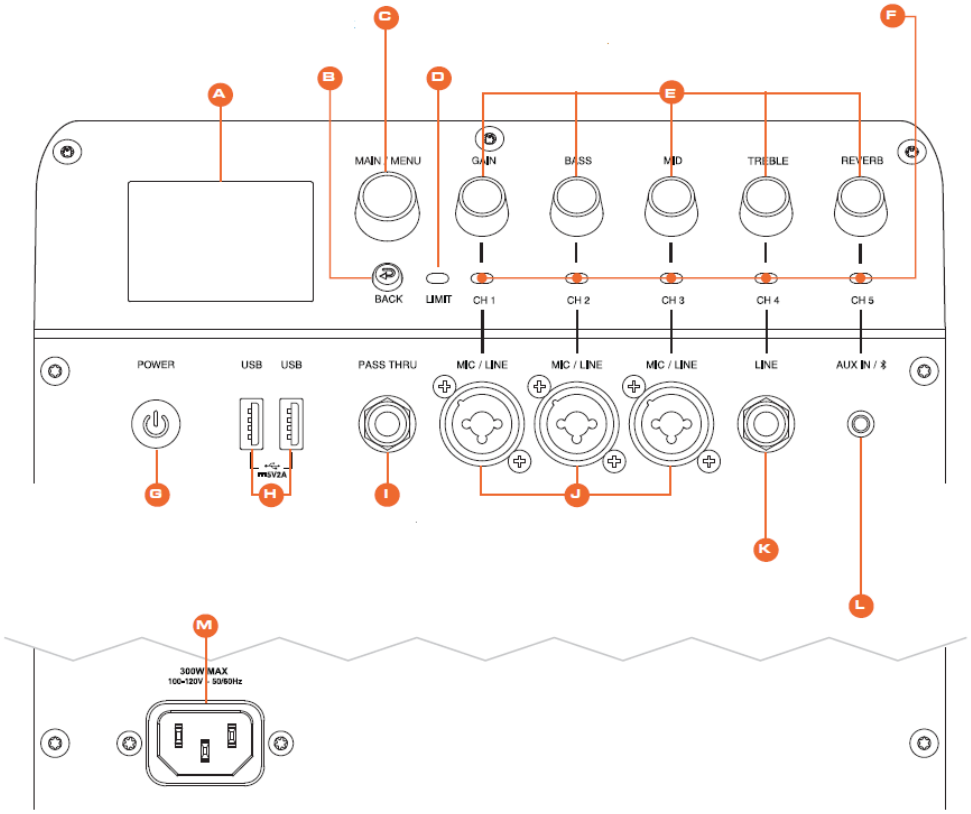
2 つのシステムをモニターとして使用

指向角度





ミキサーパネル



A. **液晶ディスプレイ**

LCD は、基本的な情報を表示するとともに、メニューを通じてより高度な機能にアクセスするために使用されます。LCD のメニュー、機能、ナビゲーションの詳細については、LCD GUI 仕様を参照してください。LCD の画面は約 4Hz と遅い速度でリフレッシュされるため、メーターなどの動きの速いもの表示には適していません。

B. **BACK**

前のメニューに戻ります。2 秒間押し続けるとミックスモードになります。

C. **MAIN / MENU**

メインボリュームと画面メニューを操作します。

- メニューを下に移動（時計回り）／メニューを上に移動（反時計回り）
- ホーム画面のとき

  メインメニューを上に移動（時計回り）／メインメニューを下に移動（反時計回り）

  ※メインノブには回転摩擦が付いています。
- プッシュ：　メニュー項目を選択

D. LIMIT

アンプがクリップを検知したときに点灯します。

E. CH ノブ

- ミックスモード：各チャンネルのゲインを調整
- チャンネルモード：選択されたチャンネルのゲインと EQ を調整

F. CH LED

- ミックスモード：選択されたチャンネルの信号レベルを色で表示
- チャンネルモード：選択されているチャンネルを表示

G. POWER

電源を ON/OFF します。オフ状態のときに短く押して離すと、ユニットは ON になります。スリープ状態では、2 秒以上長押しして電源を ON にします。

H. USB ポート x 2

- 標準的な USB2.0 Type-A ポート
- 機器の充電

I. PASS THRU（フォン・バランス）

オーディオ信号を外部に出力します。全ての入力に信号がある場合、各入力はミックスして出力されます。

J. MICX/LINE（XLR フォン・コンボ入力） x 3

マイク/ライン信号を入力します。

K. フォン端子

Hi-Z 信号入力端子です。

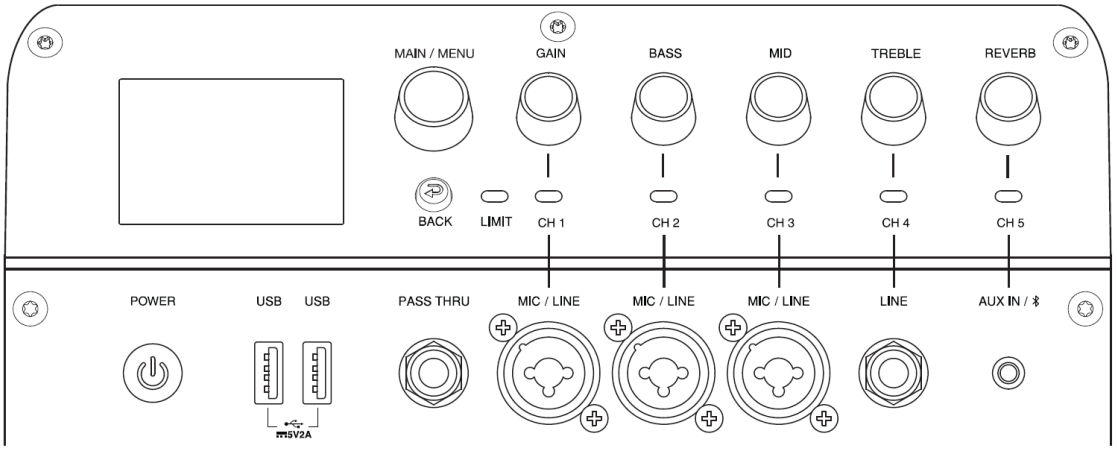
L. 3.5mm ステレオミニ

3.5mm ステレオ入力端子です。

M. 電源コネクター

A/C 電源ケーブルを挿し込みます。

I/O



CH 1-2

- **ファンタム電源**

コンデンサーマイクを使用する場合、マイク（XLR）コネクターの接点に+48V のファンタム電源が必要です。有効にすると、ファンタム電源は CH1 と CH2 の両方の XLR 入力に適用されます。ファンタム電源が必要ないときは、確実にオフにしてください。

コンデンサーマイクを使用する際に、本製品や外部機器への損傷を防ぐため、マイクを接続する前に必ず本製品のすべての出力コントロールを下げ、+48V ファンタム電源がオフになっていることを確認してください。コンデンサーマイクを接続したら、+48V ファンタム電源を有効にし、出力を希望のレベルまで上げてください。

1. 本製品では、チャンネル 1 と 2 の両方に、ユーザーが ON/OFF 可能なファンタム電源を搭載しており、LCD または JBL Pro Connect アプリからオンにすることができます。

a. ファンタムパワーを有効にするには、CH1 または CH2 のノブを押してチャンネルメニューを開きます。

b. Phantom Power に移動し、Main/Menu ノブを押します。

ノブと機能

本製品には、プッシュボタン式ノブが搭載されており、操作が容易になっています。

1. チャンネルノブを 1 回押すと、そのチャンネルのチャンネルモードが起動します。
a. 詳しくは「チャンネルモード」の項を参照してください。
2. CH ノブを 2 秒間長押しすると、そのチャンネルがミュートされます。ミュートされたチャンネルの LED がゆっくりと赤く点滅します。
3. MAIN/MENU ノブを 1 回押すと、メインメニューが表示されます。チャンネルメニュー画面のときは、MAIN/MENU ノブで画面内のメイン画面を操作します。
4. ホーム画面で MAIN/MENU を 2 秒間長押しすると、スピーカーがミュートされます。

ボタンと機能

1. BACK ボタンを押すと、変更を保存することなく、現在の画面から戻ることができます。
2. BACK ボタンを 2 秒間長押しするとミックスモードになります。

ミックスモード

1. BACK ボタンを 2 秒間長押しするとミックスモードになります。
a. 全ての LED が ON になり、ミックスモードに変わったことを示します。
2. ミックスモードでは、ノブにより、それぞれのチャンネルのゲインをコントロールします。例えば、CH1 と書かれたノブを回すと、CH1 のゲインが上がります。
3. 本製品には、マイク/ラインの自動切り替え機能があります。100dB から 0dB の間では、チャンネルは LINE モードになります。1dB から 56dB の間では、チャンネルは MIC モードになります。

チャンネルモード

1. 編集したいチャンネルのロータリーノブを押すとチャンネルモードになります。
2. チャンネルモードでは、ノブは選択されたチャンネルの各機能(Gain、Bass、Mid、Treble、Reverb Send、Delay Send、Chorus Send など）をコントロールします。

LED と機能

1. 信号検知
   チャンネルのノブの下にある LED が黄色に点滅し、信号が存在することを示します。
2. チャンネル/スピーカーのミュート時の LED 機能：チャンネルがミュートされると、チャンネルノブの下の LED がゆっくりと赤に点滅します。

LED ステータス

信号レベル	ミックスモード 信号があるチャンネル	チャンネルモード 選択したチャンネル
クリッピング	明るい赤	明るい赤
強い	明るい黄	明るい黄
弱い	明るい緑	明るい緑
なし/かなり弱い	暗い緑	暗い緑
ミュート	赤・点滅	赤・点滅

EasyNav LCD の紹介



メインメニュー

1. MAIN/MENU

ロータリーを押すと、メインメニューが表示され、機能にアクセスすることができます。

2. Ducking by Soundcraft

サイドチェーン・コンプレッサーの一種で、人がマイクに向かって話しているときに音楽再生のレベルを下げるためによく使われます。この機能では、センサーとして使用するマイクのチャンネル、各チャンネルの感度、人が話している間に音楽を下げる量を選択することができます。このメニューでは、ダッキング機能を有効にして、ダッキングのトリガーとなるチャンネルを選択し、各チャンネルのしきい値を個別に設定することができます。

a. メニューにアクセスするには、「Ducking」を選択して、Main/Menu ボタンを押します。
b. ノブを回してダッキングを ON/OFF します。
i. ノブを時計回りに回すとダッキングが有効になります。
ii. 反時計回りに回すと無効になります。
c. 「Channel Sensors」から、ダッキングを使用するマイク入力を選択できます。
i. 「Channel Sensors」フィールドに移動し、Main/Menu ボタンを押します。

- センサーとして設定したい入力チャンネルに移動し、メイン/メニューボタンを押します。
- ノブを時計回りに回すと、そのチャンネルがダッキングのセンサーとして有効になります。これを選択すると、それぞれのチャンネルが信号を検知し、CH5 の入力に対してダッキング機能が作動します。
- ノブを反時計回りに回すと、そのチャンネルがダッキングのセンサーとして無効になります。この機能を無効にすると、このチャンネルで信号を検出しても、CH5 の入力に対してダッキング機能は作動しません。

d. 「Sensitivity Parameters」では、各マイク入力チャンネルがどの音量レベルでダッキ

ングのスレッショルドをトリガーするかを選択することができます。強い声に対して反応させたい場合は、センサーレベルを高くします。小さい声に対して反応させたい場合はセンサーのレベルを低くします。

i. 「Sensitivity Parameters」がハイライト表示されている状態で、Main/Menu ノブを押すと、値を選択・編集できます。

- 編集したい各チャンネルに移動し、Main/Menu ノブを押して選択します。
- パラメーターを変更します。
- Main/Menu ノブを押して変更内容を保存します。
- BACK ボタンを押すと、この調整がキャンセルされます。

ii. 「RANGE」は、信号を検知した際に、CH5 の音量をどの程度下げるかを決めるパラメーターです。

- 「RANGE」に移動し、Main/Menu ノブを押します。
- パラメーターを変更します。
- Main/Menu ノブを押して変更内容を保存します。
- BACK ボタンを押すと、変更がキャンセルされます。

iii. RELEASE TIME は、信号が検出されなくなった後、CH5 が通常の音量に戻るまでの時間を示すパラメーターです。この値は ms（ミリ秒）で表されます。

- RELEASE TIME フィールドに移動して Main/Menu ノブを押します。
- パラメーターを変更します。
- Main/Menu ノブを押して変更内容を保存します。
- BACK ボタンを押すと、変更がキャンセルされます。

3. FX Processing

Lexicon 社製エフェクトエンジンのエフェクトパラメーター（センドを除く）にアクセスします。

a. 本製品では、リバーブ、ディレイ、コーラス、サブ・シンセなどのエフェクトを利用できます。

i. Main/Menu で FX Processing メニューに移動し、ノブを押してアクセスします。

ii. ここでは、エフェクトのオン／オフ、メインパラメーターの編集、プリセットへのアクセスが可能です。

b. Reverb by Lexicon リバーブのパラメーター

i. 「On/Off」

- オフに設定すると、Reverb by Lexicon の入力が無効になります。アクティブな状態でこれをオフにすると、現在のリバーブがかかり続けます。リバーブをすぐに軽減したい場合は、Level To Mix の設定を下げてください。

ii. Reset

Reverb by Lexicon をオフにし、設定をデフォルトの「Room Medium」プリセットに変更し、工場出荷時の状態に戻します。

iii. Preset

一般的な使用例で素早く選択できるように、あらかじめ作成した設定をユーザーに提供します。リバーブ設定には、シミュレートする部屋やホールのタイプを示す名前が付けられています。

- プリセットは、よく使われるリバーブ設定をすぐに試してみたいときに便利です。
- 「カスタム」を選択して、すべての設定を自分で変更することができます。また、あるプリセットを聞いてから設定を追加すると、新しい設定の組み合わせが自動的に「カスタム」設定に読み込まれ、さらに変更することができます。
- Custom（カスタム）
- Room Small
- Room Medium
- Room Medium Bright
- Room Large
- Hall Medium
- Hall Medium Bright
- Hall Large

iv. 部屋の大きさ（サイズ）と演奏者と観客の距離「プリ・ディレイタイム」2 つのコントロールを使用してリバーブを定義します。

- 部屋の大きさは、「小さい」、「中程度」、「やや広い」、「広い」から設定します。

- プリディレイは、ソース信号が直接観客まで届く時間と、最も近い壁から反射してくる最初の反射音との遅れの比率を計算しています。
- プリディレイ時間を短くすると、観客は音源から遠く感じます。
- プリディレイ時間を長くすると、観客は音源に近く感じます。

v. High Frequency パラメーター

リバーブ内での高域の反射の度合いを決めます。

- 金属やガラスの表面が多い部屋は、高域の反射が多くなります。
- 柔らかい材質の壁で囲まれた部屋や屋外の環境は、高域の反射が少なくなります。

vi. Low frequency

リバーブ内での低音の量を決めます。

- 屋内の硬い表面の部屋では、低音がより増強されます。
- 屋外では、低音が少なくなります。

vii. Level to Mix パラメーター

メインミックスに戻されるウェットシグナル(またはリバーブ付きのシグナル)の量です。

- レベルを上げてミックスすると、より顕著なリバーブ効果が得られます。
- レベルを下げてミックスすると、より繊細なリバーブ効果が得られます。

viii. パラメーターの調整

MAIN/MENU ノブでパラメーターを選択します。MAIN/MENU ノブを押してアクセスします。

- つまみを時計回り、または反時計回りに回して値を調整します。
- MAIN/MENU ノブを押して変更内容を確定します。BACK ボタンを押すと、変更内容がキャンセルされます。

c. Delay

FX Processing の Delay は、ロックやバラードのボーカルやギターによく使われる、音楽との親和性が高いディレイとして設計されています。現在演奏されている曲の BPM（Beats Per Minute）に合わせて設定されることが多く、また、1 拍ごとに何回ディレイを戻すか、ディレイがかかり続ける時間、ディレイが何度も戻ってくるようにするか、なども設定できます。

i. ″On/Off″

Off に設定すると、Delay 入力が無効になります。現在のディレイ信号が完了するまで、現在の信号が「継続」になります。ディレイをすぐに終了させるには、Mix フェーダーに送る Level to Mix を下げてください。

ii. ″Reset ″

Delay に関する設定が全て初期設定になります。

iii. ″Presets ″

よく使用するディレイの設定が用意されていて、すばやく選択できます。プリセットに

は、音楽のジャンルに合わせて分かりやすい名前が付けられています。ユーザーは「カスタム」を選択して、すべての設定を自分で調整することができます。また、あるプリセットから始めて、試聴し、必要に応じて設定を調整することもできます。ユーザーがプリセットを選択してから設定を調整すると、現在のすべてのディレイ設定が「カスタム」プリセットに読み込まれ、さらに編集できるようになります。

- カスタム
- シンプル 1／4
- シンプル 1／8
- シンプル 1／3
- シンプル 1：1
- スタッガード・エコー
- バウンス・ウォール
- ファスト・スプリング

iv. ″Beats Per Minute ″
計画中または進行中の曲の 1 分あたりのビート数を入力します。曲のテンポに合わせてディレイタイムを自動的に計算して、1 分間のビートに合わせたディレイをかけます。

v. ″SubDivision ″
1 拍ごとにディレイが信号を返す回数を入力することができます。例えば、″1:2 ″と設定した場合、1 拍ごとに 2 回のディレイリターンが聞こえてきます。

vi. ″Delay Length ″
1 拍ごとにディレイを返す時間をミリ秒（ms）で表した設定です。数字が小さいほど、1 拍ごとにディレイが戻ってくる信号の消え方が早くなります。

vii. ″Feedback″
ディレイ・プロセッサーの入力にフィードバックされるディレイ信号の量のことです。ディレイ・サウンドにさらなる深みを与えます。

viii. ″Low Pass Filter″
ディレイリターン信号にある相対的な高域レベルを下げることができます。明るすぎるソース信号にある高域のとげとげしさを補正するためにこの設定を下げることができます。

ix. ″Level to Mix ″
FX Return フェーダーを通る最終的なディレイ信号の量を設定します。

- パラメーターを調整するには、MAIN/MENU ノブでパラメーターを選択します。MAIN/MENU ノブを押してアクセスします。
- つまみを時計回りまたは反時計回りに回して値を調整します。
- MAIN/MENU ノブを押して変更内容を確定します。BACK ボタンを押すと、変更内容がキャンセルされます。

d. Chorus

FX Processing の Chorus は、ロックやバラードのボーカルやアコースティックギターに、音楽性を保ちながら輝きを加えるために用意されています。コーラスは、音源のハーモニクスとキャラクターをわずかに強調するために使用されることがよくあり、ボーカルのようなシンプルな波形タイプの音源に、輝きを与えるために使用されます。

i. ″On/Off″

Off に設定すると、Chorus 入力が無効になります。これにより、現在のコーラス効果が終了するまで、現在の信号が「継続」になります。コーラス効果をすぐに終わらせるには、Mix フェーダーに送る Level to Mix の値を下げます。

ii. ″Reset ″を選択すると、Chorus 処理の設定がデフォルト設定になります。

iii. ″Presets ″

Chorus プリセットには、音楽の使用条件に合わせて分かりやすい名前が付けられています。ユーザーは「カスタム」を選択して、すべての設定を自分で調整することができます。また、あるプリセットから始めて、試聴し、必要に応じて設定を調整することもできます。ユーザーがプリセットを選択してから設定を調整すると、現在のすべての Chorus 設定が「カスタム」プリセットに読み込まれ、さらに編集できるようになります。

- Custom
- Slow Light
- Slow Deep
- Fast Light
- Fast Deep
- Smooth Vibrato
- High Pass
- Medium Narrow

iv. ″Rate ″

コーラス効果の振動の速さを調整します。

v. ″Depth ″

コーラス効果が効く時間の長さを調整します。

vi. ″Width ″

コーラス効果がソース周波数の上でどれだけ広く共鳴するかを調整します。

vii. 「Level to Mix」

FX Return フェーダーに送られる Chorus 信号の量で、最終的なミックスに寄与します。

- パラメーターを調整するには、MAIN/MENU ノブでパラメーターを選択します。MAIN/MENU ノブを押してアクセスします。
- つまみを時計回りまたは反時計回りに回して値を調整します。

- MAIN/MENU ノブを押して変更内容を確定します。BACK ボタンを押すと、変更内容がキャンセルされます。

4. dbx DriveRack Output

本製品に組み込まれた DriveRack 機能は、この JBL スピーカーに内蔵されたスピーカー出力と Pass Thru 出力の組み合わせを最適化するように設計されています。

a. AFS (Automatic Feedback Suppression) は、ミックス入力にオーディオのフィードバックが戻ってくる前に、出力に最大 3dB のトータルゲインを追加することができる処理です。dbx AFS は、出力のメイン EQ の前に、オートセンシングと非常に狭い幅のパラメトリック EQ を組み合わせて使用しています。ロックフィルターは、ライブ前に「固定 」フィルターとして設定することができます。さらに、ライブ AFS フィルターは、イベント中に最新のフィードバック周波数のリスクを追いかけるためにオンにすることができます。例えば、ステージ上でハンドヘルドマイクの位置や方向が変わることによって生じる変化などを追いかけるためです。

i. ハウリングを防ぐためには、AFS システムを使用し、ステージセッティングにおいてベストの設定を常に推奨しています。マイクは、ステージ上で以下の位置基準に従うと、ハウリングを起こす可能性が低くなります。

- マイクは、スピーカーの前面の後ろに設置してください。
- マイクは、スピーカーの左右から 2 メートル以上離れた場所に設置してください。

b. 「AFS by dbx」 On/Off
AFS プロセッサーのオン/オフが切り替わります。

c. 「Live AFS」 On/Off
ライブ AFS フィルターのオン/オフが切り替わります。ライブフィルターは、ステージ上を移動するマイクからのフィードバックをキャッチするのに最適です。ライブ AFS は、AFS 処理の使用を開始する最も早くて簡単な方法です。

d. 「Reset Live Filters」
すべてのライブフィルターがリセットされ、潜在的なフィードバックリスクを発見するために、フィルターがリセットされてやり直されるようになります。

e. 「Learn Fixed」
固定式 AFS フィルター周波数の自動検出と設定を開始します。本番前にマイクを接続し、スピーカーの電源を入れた状態で、"Learn Fixed "機能を有効にします。その後、近くのマイクに近づき、大きな声で話しかけてフィードバックを誘発させてみてください。フィードバックが見られない場合は、フィードバックが鳴って固定 AFS フィルターで抑制されるまで、メインボリュームをゆっくりと上げていきます。スピーカーの AFS システムがハウリングの周波数を検知するたびに、自動的にその周波数に固定 フィルターをかけます。ハンドヘルドマイクを持って演奏者の周りを移動するなど して、マイクに向かって大きな声で話し続けてください。

i. ライブ AFS ″をオフにして、「Learn Fixed ″を操作してください。
ii. すべての固定周波数が埋まると、「Learn AFS」は自動的にオフになり、固定フィル　タ
ーはそのイベントのためにロックされます。
iii. すべての固定 AFS フィルターの周波数割り当てが完了しない場合、ユーザーは「Learn Fixed」設定を再度クリックして、手動で「Learn AFS」をオフにすることができます。「Learn AFS」をオフにすると、自動的に「Fixed AFS On/Off」の設定が残ります。
iv. 「Learned Fixed」の設定が完了したら、「Live AFS」をオンにして、ライブイベント時のフィードバック抑制設定を行います。

f. 「Remember Fixed on Reboot」

スピーカーは、同じ設定で長時間使用することがあります。このような場合、スピーカーの電源を何度もオン/オフすることがあります。「Remember Fixed on Reboot」をオンにすると、固定された AFS フィルターが、次回スピーカーを起動したときに、そのときの周波数割り当てを維持するように設定されます。サウンドチェックで AFS 固定フィルターを設定してからイベントに参加するまでの間に誤って電源を落としてしまった場合に備えて、一般的にはこの設定をオンにしておく方が多いでしょう。スピーカーを新しい場所に移動させるグループは、この機能をオフにした方がいいかもしれません。場所によってフィードバックの問題が異なるため、以前の固定フィルターでは対応できないからです。

5. Main EQ

オーディオ信号がアンプやスピーカーに供給される前のメインミックスのフィルター調整を行うメニューです。一般的なスピーチや音楽のスタイルに合わせて、簡単に選択できるプリセットが含まれています。また、各プリセットを「カスタム」プリセットにロードすることで、ユーザーによる詳細な調整が可能な出力パラメトリック EQ にすることができます。各バンドのレベル、周波数、幅 (Q) をユーザーが調整できます。

a. 「Main EQ」On/Off

Main EQ プロセッサーの現在の設定を有効にしたり、無効にしたりします。

b. 「Reset」を選択すると、出荷時の Main EQ のデフォルト設定である「フラット」にリセットされます。

c. 「Presets 8x」

Main/Menu ノブを回転させることで、Main EQ のプリセットを表示・選択することができます。

i. メニューを ″Presets 8x ″までスクロールし、MAIN/MENU ノブを押します。
ii. MAIN/MENU ノブを回して、利用可能なプリセットを表示します。
iii. MAIN/MENU ノブをクリックすると、現在表示されているプリセットがロードされます。
iv. カスタムプリセットをロードした後、Main/Menu ノブをダブルクリックして、Main EQ 編集ページを開きます。グラフ表示ページでは、Main/Menu ノブを特定のパラメトリッ

ク EQ 番号に合わせて回転させ、再度 Main/Menu ノブをクリックすることで、ゲイン（プラスまたはマイナス、dB）、フィルター周波数、"Q"（フィルター幅の調整）の編集を行うことができます。

- ユーザーは、出発点として任意のプリセットをロードし、次にスクロールダウンして任意の設定を調整し、現在のカーブをカスタムプリセットとしてロードして、さらに編集することができます。この操作を行うと、現在のカスタムプリセットの設定が削除され、現在表示されている設定が読み込まれることを警告する確認ダイアログが表示されます。

6. Output Limiter

シグナルチェーンの Main EQ の後、メインミックスにリミッターをかけます。

a. リミッターは、ミックスのダイナミックレンジの中で最も大きな信号レベルをカットします。非常に大きな音量のソースを再生する際の保護や、メインミックスの最も大きなダイナミクスを壊すことなく低減するために使用することができます。スレッショルドの低いリミッターを補正するには、メイクアップゲインを慎重に上げてください。

b. 「Reset」

Output Limiter を工場出荷時の設定に戻すためのコマンドです。

c. 「Preset」

よく使用する状況やトラブルシューティングのためにリミッター設定を呼び出すことができます。

i. 3 つの設定のいずれかを選択して編集すると、プリセットは自動的に設定を Limiter 「Custom」プリセットにロードし、さらにユーザーが編集できるようにします。

d. 「Threshold」

スレッショルド・レベルを設定して、アンプとスピーカーへのミックス出力レベルを制限することができます。そのレベルを超えるすべてのダイナミックレンジの最大値は、スレッショルド・レベルまで制限されます。

e. 「OverEasy」

信号がスレッショルド・レベルに達する前の移行をスムーズにします。「OverEasy」は、ロックバラードや講演会のスピーチなどでよく選択されます。「OverEasy」をオフにすると、ハードロックや DJ スタイルの音楽番組に適しています。

f. 「Makeup Gain」は、制限されたミックスをプリ・リミッターレベルまで引き上げるために使用します。

注意：大音量のミックスに「Makeup Gain」を使用すると、欲しいミックスゲインレベルを超えてしまう可能性があります。この設定は、熟練したオーディオの専門家のみが使用することをお勧めします。リミッターは、常に微調整を心掛けます。

7. Pass Thru、Time Align

Thru XLR 出力を使用して、ミックスを追加のスピーカーに供給することができます。Pass Thru から信号を供給することができるスピーカーの種類と、そのスピーカーと観客との位置関係に基づいたプリセットを設定することができます。

a. 「Pass Thru」On/Off
   Pass Thru XLR 出力を有効または無効にします。
b. 「Presets」
   Pass Thru XLR 出力を使用して、スピーカーの組み合わせを 3 種類選択することができます。
c. 「Full Range」
   別のフルレンジスピーカーに信号を供給します。本機と Pass Thru XLR アウトの両方を、同じフルレンジミックスを再生する別のスピーカーに送ります。
d. 「Sub」
   低域を分離し、サブウーファースピーカー用の Pass Thru XLR 出力にのみ供給するために、出力が 80Hz 以下のミックス信号のみを通すように設定されます。
e. 「Custom」
   ユーザーが手動で次の設定を行うことができます。
f. 「HPF on this Speaker」
   選択した周波数以下の信号をカットし、内蔵アンプ/スピーカーに送ります。
g. 「LPF on Pass Thru Out」
   Thru Out の XLR 出力にローパスフィルターを設定するために使用します。

8. タイムアライメント

a. 複数のスピーカーを使用するとき、スピーカーと観客の距離が離れている場合には、シグナルディレイを使用します。
b. 例

i. サブウーファーをステージの前に置き、フルレンジスピーカーをステージ上に置きます。この構成では、サブウーファーが観客に近い位置にあるため、サブウーファーへの Pass Thru XLR 出力を少し遅らせる必要があります。
ii. Array bar extender
   別のスピーカーを客席との距離が若干異なる位置に取り付けるために使用します。この場合、客席に最も近いスピーカーの信号を遅らせて、客席から最も遠いスピーカーに合わせます。
iii. パススルーXLR 出力
   客席の半分後ろに設置された追加のフルレンジスピーカーに供給され、可聴距離を延長します。この場合、遅れを正しく補正するために、客席のバックフィル・スピーカーを遅らせます。

c. タイムアライメントの基本。

i. 距離の違いを補正するために、観客から最も遠いスピーカーを決定し、近いスピーカーへの信号を遅らせて、観客から最も遠いスピーカーに合わせます。

ii. 音は、平均的な湿度と室温の空気中を、1m あたり 3ms の速さで伝わります。最初、各スピーカーから客席までの距離の差を測定します。客席から最も遠いスピーカーには、タイムアライメントのディレイをかけずに音を出します。他の近いスピーカーには、一番後ろのスピーカーからの距離に応じてディレイを設定します。距離の差を測定し、各スピーカーに対して一番後ろのスピーカーから前方に 1.1 フィートにつき 1 ミリ秒を入力してください。すべての観客に対してスピーカーの距離差を測定するわけではないため、タイムアライメントは完璧ではありません。

iii. 「Delay Pass Thru Out」
PASS THRU 出力に対してスピーカーのディレイをかけます。

iv. 「Delay This Speaker」
このスピーカーのミキサーINPUT にディレイをかけます。

チャンネルメニュー

1. アクセスしたいチャンネルのロータリーノブを押すことでアクセスできます。アクティブなチャンネルは LCD の最上部に表示され、チャンネル番号の下の LED が点灯します。

a. **MUTE**

選択したチャンネルをミュートします。

i. ミュート中は、ミュートしたチャンネルの LED が赤く点灯します。

ii. 各チャンネルのノブを 2 秒間長押しすることで、チャンネルをミュートすることができます。

b. **チャンネル 1-2**

+48V のファンタム電源が使用できます。これはチャンネルメニューで設定できます。詳しくは本ガイドの「ファンタム電源」の項を参照してください。

c. **Input EQ**

各チャンネルの固定およびパラメトリック EQ にアクセスできます。入力チャンネルの EQ は、オーディオ入力チャンネルに対してフィルターをかけます。

i. プリセット

よく使う設定を簡単に選択できるプリセットカーブが用意されています。

ii. 入力チャンネル EQ

ステージ上で生成された低域のエネルギーを低減するハイパスフィルター、ハードウェアのチャンネルノブや LCD スクリーンで調整可能な Bass/Middle/Treble のシンプルなコントロール、そして、ゲイン、周波数、幅（「Q」）を個別に設定できるパラメトリック EQ バンドを搭載し、フィルターの編集を細かくコントロールできます。

iii. 「Channel #」On/Off

入力チャンネルの EQ プロセッサーを有効にしたり、バイパスしたりします。

iv. 「Reset」

入力チャンネルの EQ が工場出荷時の状態（フラットカーブ）になります。

v. 「Presets 8x」

EQ プリセット（ユーザー選択）を開きます。

- Main/Menu ノブを回転させると、利用可能な EQ のプリセットが表示されます。
- Main/Menu ノブをクリックすると、現在表示されているプリセットがロードされます。
- EQ のプリセットが表示されている状態で、Main/Menu ノブをダブルクリックすると、EQ の編集画面が表示されます。
- EQ 編集ページでは、Main/Menu ノブを回して HPF（ハイパスフィルター）、Bass/Middle/Treble コントロールを選択するか、パラメトリック EQ のバンド番号を選択してノブをクリックすると、そのバンドの編集作業が開始されます。
- パラメトリック EQ のバンドでは、回転させながら、ゲイン（プラスまたはマイナス、

単位は dB)、フィルターの周波数、Q（フィルターの幅の調整）などの設定を選択して編集することができます。

vi. チャンネル EQ の設定

MAIN/MENU ノブを回して INPUT EQ フィールドに移動し、MAIN/MENU ノブを押します。

d. **FX センドセクション**

それぞれのエフェクトセンドにアクセスします。すべての FX センドは「ポストフェーダーレベル」となっており、ユーザーがチャンネルフェーダーを調整すると、そのレベルまたはミュート状態がチャンネル FX センドに反映されます。

i. アクセスするには、FX Send セクションに移動し、MAIN/MENU ノブを押します。

ii. 変更したいエフェクト・センドに移動し、MAIN/MENU ノブを押します。

- 時計回りに回すと、エフェクトセンドが増えます。
- 反時計回りに回すと、エフェクトセンドが減少します。
- MAIN/MENU を押して、編集内容を保存します。
- BACK ボタンを押すと、編集した内容がキャンセルされます。

設定

1. 「BT Audio Pairing」

最大 30 秒間、Bluetooth オーディオデバイスとのペアリングを実行します。この設定は、ペアリングが成立したとき、または 30 秒後にオフになります。

2. 「BT Control Pairing」

JBL Pro Connect アプリで Bluetooth コントロールのペアリングを最大 30 秒間実行します。ペアリングが完了したとき、または 30 秒後にオフになります。BT ペアリングを有効にすると、BT ペアリングが開始されたことを示すペアリングウィンドウがポップ

アップ表示されます。ペアリングに成功すると、このウィンドウは消えます。

3. 「LCD Contrast」

LCD のコントラストを 0～100%の間で調整することができます。

4. 「Firmware Version」

スピーカーに読み込まれている現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

5. 「Factory Reset」

Bluetooth 通信のペアリングを含め、スピーカーのすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。

バッテリーについて

1. EON ONE MK2には、バッテリー駆動時に作動するスリープ機能があります。
   この機能は、バッテリーの連続使用時間を延ばし、長期的な寿命を保つためのものです。
   この機能を無効にすることはできません。
2. すべてのチャンネルで信号が検出されない状態が30分間続くと、スリープ状態になります。
3. 次のいずれかの操作や条件により、2秒以内にスリープ状態から復帰します。
   - いずれかのチャンネルで、-56dBuを超える信号が検出される。
   - 本体のいずれかのノブを回す、またはJBL Pro Connectアプリで操作する。
4. バッテリー駆動時に無信号の状態が5時間を超えると、EON ONE MK2の電源がオフになります。
   この状態から復帰するには、電源ボタンを押す必要があります。

JBL Pro Connect

JBL Pro Connect アプリは、本製品内の機能をリモートコントロールするための Bluetooth Low Energy コントロールアプリです。このアプリは iOS と Android で動作し、無料でダウンロードできます。

技術仕様

システムタイプ	電源付きコラム PA スピーカー
ウーファーサイズ	10 インチ
ツィーターサイズ	2 インチ
ツィーター数	8
最大 SPL	123db/119dB AC/バッテリー
周波数範囲 -10dB	37-20kHz
周波数範囲 -3dB	45-20kHz
指向角度(HxV)	140°x 30°
アンプ出力	1500W ピーク
	400W RMS
AC 電源入力	300W 100-230V AC 50-60Hz
入力インピーダンス	4kΩ (XLR フォン・コンボ (バランス))
	2MΩ (Hi-Z 端子 (バランス))
	10kΩ (3.5mm シングルエンド) x 2 チャンネル
クロスオーバー周波数	230Hz
入出力チャンネル	フォン (バランス)
キャビネット	ポリプロピレン
重量	19.3kg
梱包重量	22.38kg
寸法 (WxDxH)	452 x 627 x 730mm
バッテリー	97.2Wh、36V、リチウムイオン